

# 10年後に安心して生活できる町をつくるために

2月28日(火)に「第3回立科町地域支援づくり推進会議」が行われました。

会議の中では、前回、1月に行われた第2回の会議での「立科町の総合戦略と地方創生」「地域のボランティアグループの報告」「立科町の介護保険をふまえた現状」についての説明に対する質疑や会議・委員の役割、今後の取組み方について協議が行われました。



委員の皆さんより「交通弱者を視野に入れてもらいたい。」

「住民に理解してもらってやっていかなくてはいけないと思う。」

「認知症のレベルはいろいろある。日常生活の中でどこが問題なのかという視点で把握していく必要がある。」

「広報や回覧を見ていない人もいる。周知の仕方も工夫が必要。」

「子どもがのびのびと立科町で育っている。子どもが立科町に戻ってきて生活したいと言っている。戻ってきたくなるような町、結婚して住みたい町、町のいい所をよくしていけたらいいのではないか。」

「最近では若い方も移住を考えている。安心して食べられる場、何かあったときに助け合える場、自己実現できる、自分が活動したときにイメージできる町をできるだけ発信していきたい。」

「地域に参加する手段がない。隣近所の人たちとゴミだしなどができれば、それを地域づくりにつなげていけたらいい。」

「地域の人たちの活動を知っていく。あるものはつないで、ないものはつくっていく。」等々、意見が飛び交っていました。

今後も立科町で住み続けていくために何が 필요한のか知恵を持ち寄り協議を進めていく予定です。

## 平成29年度 ごみの分け方の変更点について

環境保健係

### 可燃ごみ (赤色の指定袋)

平成28年度まで

生ごみ、紙類等    プラスチックのおもちゃ、カセットテープ等



「可燃ごみ」を二つに分ける

平成29年度から

生ごみ、紙類等    プラスチックのおもちゃ、カセットテープ等



同じ指定袋に入れてよい

※マークで分別している、容器包装プラスチック及びビニール（紫色の指定袋）の分別は、変更ありませんのでご注意ください。

※生ごみは十分に水切りをしてください。

※ごみの資源化・減量化にご協力ください。